中学生および青少年による地域活動

2020年度版 第7号　9月発行

ふ.る.る Mibu だより

発行：壬生町教育委員会事務局生涯学習課　〒321-0292　壬生町通町12-22
TEL 0282-81-1873 / FAX 0282-82-0935
E-mail：gakusyu@town.mibu.tochigi.jp

「地域活動への参加」記録カード

中学生全員に「**地域活動への参加**」記録カードを、町教育委員会より配付しています。

記録カードには保護者や主催者等地域の大人の方から印（またはサイン）をいただく欄があります。活動終了後、励ましの言葉とともに押印（またはサイン）していただき、がんばった中学生を勇気づけてください。皆様のあたたかい言葉かけで、中学生たちは自己有用感を育てていきます。

記録カードは、すでに４月に発行していますが、紛失してしまった場合は再発行しますので、生涯学習課（連絡先：81-1873）までご連絡ください。よろしくお願いします。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大によって、多くの行事等が中止となっています。それにともない、中学生および青少年のみなさんに地域活動の機会を提供することが難しい状況になっています。地域活動を楽しみにされていたみなさん、本当に申し訳ありません。

町広報誌（広報みぶ８月号）に掲載されましたが、１２月６日（日）に開催を予定していた「**第９回壬生町ゆうがおマラソン大会**」は中止になりました。

そのため、中学生給水所スタッフの募集は行いませんのでお知らせします。

第８回 壬生町ゆうがおマラソン大会（令和元年 12 月 1 日）の様子

中学生のふりかえりから（ 地域活動に参加しての感想 ）

- 応援していると、ハイタッチをしたり、手をふったりして地域の方とふれあえたので嬉しかったです。一生懸命に走ってゴールを目指している姿がすごくかっこよくて心を打たれました。
- 頑張っているランナーを応援することができてよかった。笑顔でゴールされるランナーの皆さんはとても幸せそうだった。今回の地域活動をとおして、積極的に人と接することができるようになったと思う。
- 給水所で自分が渡した飲み物をとってくれたこと。応援したら「ありがとう」と言ってくれたこと。
- ボランティア活動に参加して、人の役に立てて良かったと思った。

壬生町教育委員会ホームページでも中学生・青少年による地域活動の情報を発信しています　壬生町教育委員会生涯学習課　検索

『とちぎの慣習・ことば集 ～のこしていきたい つたえていきたい とちぎ人の想い～ （栃木県教育委員会）』より

1　サガンボ、モロ

栃木県では、サガンボやモロといわれる魚を煮付けにして食べる風習があります。サガンボはアブラツノザメ、モロはネズミザメのことです。

＜ どうしてサメを食べているの？ ＞

サメは、体の中に尿素を蓄えており、命が尽きると尿素が分解しアンモニアができます。そのため腐りにくくなります。

そこで、海の新鮮な魚に恵まれなかった内陸地方では、腐りにくいサガンボやモロが数少ない海の魚として伝わり、食材に利用されてきました。

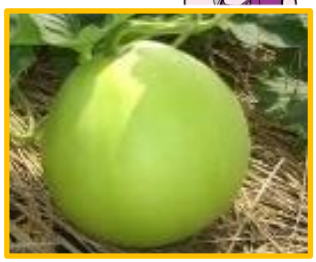
＜ 「サガンボ」名前の由来 ＞

※アブラツノザメ ⇒

アブラツノザメ（サガンボ）の、頭部を切り取った胴部の形は、ツララに似ています。ツララのことを栃木県ではサガンボといいますが、サガンボはそのことからついた呼び名といわれています。

～ かんぴょうのものがたり ～

むかしむかし近江国水口藩（現在の滋賀県甲賀市）から下野国壬生藩（現在の栃木県壬生町）にりっぱなお殿様がやってきました。名前は鳥居忠英といいました。お殿様は、壬生藩のくらしを豊かにするために、農作物の生産をふやし、産業を盛んにしたいと考え、水口藩で作られていたたいへんおいしい「かんぴょう」を思い出しました。そこで、今から約 300 年前の 1712 年に「かんぴょう」の原料となる「ゆうがお」の種をとりよせ、壬生藩の人々にまかせたところ、すくすくと育ち、とてもよい「かんぴょう」ができあがりました。それからも「ゆうがお」を育てるために大切な「水はけのよい土」や「夏のかみなりさまによる雨」の多いこのあたりで「ゆうがお」の栽培がどんどん広まっていきました。そして、今では壬生町をはじめ、上三川町、下野市、小山市で作られ、日本一の「かんぴょう」の産地となりました。…



『歴史とロマンのかんぴょう街道』より

発行　壬生町教育委員会事務局生涯学習課　（0282-81-1873）